

温帯低気圧の通過に対する農作物等管理技術対策について

令和4年7月5日
埼玉県農林部

気象庁によると、台風第4号から変わった温帯低気圧が本州の南岸を東進する予想です。このため、埼玉県では雷を伴った激しい雨が降り大雨となるところがある見込みです。

つきましては、農作物等管理技術対策資料を以下のとおり作成しましたので、参考としてください。今後の温帯低気圧の進路等の気象情報に留意し、早めの対応をお願いします。

また、**高温・高湿下での農作業は、熱中症を引き起こしやすいので注意してください。**

畑作、水田共通事項

- 1 安全第一とし、低気圧接近中や通過直後の河川や用水路が増水している場合には、ほ場の巡回は避け、水位が下がった段階で被害状況を確認する。
- 2 畑作ほ場では、排水路や暗渠の点検、必要に応じて排水溝の整備を行い、ほ場の停滞水に備える。
- 3 冠水または浸水したほ場は、低気圧通過後に速やかに排水する。
- 4 低気圧通過後は、病虫害の発生を防ぐため、作物に付着した土砂などを洗い流すように薬剤散布を行う。

ハウス共通事項

- 1 フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなどして補強する。周辺に風で飛散する物がないよう整理する。
- 2 いちご苗等で天井部のみ被覆しているハウスは入念に点検し、対策を講ずる。
- 3 出入り口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間からの風の吹込みを防ぐ。
- 4 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
- 5 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

水 稲

- 1 低気圧接近時には強風による穂ずれ、葉の損傷、倒伏等を防ぐため、できるだけ深水管理を行う。
- 2 冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- 3 ただし、低気圧通過後の乾いた強風をともなう場合は、風が収まるまでは湛水状態を保つ。
- 4 除草剤散布後、間もないほ場でのオーバーフローは、除草効果の低下につながるため、残草が発生した場合には中・後期剤の使用を検討する。

大 豆

- 1 低気圧接近が想定される場合は、ほ場の耕起を行わず地表水の早期排水をはかり、天候回復後速やかには種作業が行える準備をする。
- 2 は種期に大雨が予想される場合は、湿害回避のためは種を遅らせる。
- 3 は種が7月中旬以降に遅れる場合は、は種量の増加や狭畦栽培の導入を検討する。
- 4 は種後20日以上経過している場合は、中耕や培土を行い、耐倒伏性を高める。

野 菜

◎さといも

- 1 風雨による疫病の発生が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。

◎露地なす

- 1 停滞水にともなう根の活力低下が青枯病、半身萎凋病等の発生を助長するので、速やかに排水する。
- 2 低気圧通過後は、褐色腐敗病等が発生しやすいので、速やかに薬剤散布を行う。
- 3 風雨でキズなどが発生し商品価値が低下する果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

◎いちご親株・育苗ほ

- 1 親株ほへの浸冠水は炭疽病や疫病の発生を助長するので、速やかな排水対策を行う。
- 2 風雨による炭疽病の発生拡大が懸念されるので、天候回復後に速やかに薬剤散布を行う。

- 3 育苗ハウスの点検・補強をする。強風による損壊を防ぐため、雨よけハウスではビニールを縛り上げる等の対策を講じる。

◎ねぎ

- 1 土寄せができる状態のものは、倒伏防止のため事前に土寄せを行う。
- 2 低気圧通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、速やかに排水する。
- 3 天候が回復次第、軟腐病・白絹病・べと病・疫病等を対象に速やかに薬剤散布を行う。
- 4 収穫期のほ場では、高温多湿による軟腐病が拡大する前に、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。

◎にんじん・だいこん・かぶ

- 1 出荷間近なもので葉の損傷が軽いものは、出荷時の調製を十分に行い商品価値を落とさないようにする。
- 2 損傷が軽く、収穫までに日数を要する場合は、病害の発生が懸念されるので、薬剤散布を行う

◎えだまめ・スイートコーン

- 1 強風により倒伏したスイートコーンは、作物体の立ち上がり回復を待って作業を行う。
- 2 えだまめではべと病等の発生が懸念されるので、天候回復後、速やかに薬剤散布を行う。

◎こまつな・ほうれんそうなど軟弱野菜

- 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤散布を行う。

果 樹

- 1 収穫できる果実は事前に収穫する。
- 2 棚や支柱、網などを点検・補強し、樹体や棚の揺れを少なくする。
- 3 葉・枝の損傷が発生した場合は、なしでは黒星病、疫病、胴枯病、ぶどうでは晩腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。
特に、降雹害を受けた園では、薬剤防除を必ず実施し、樹体の保護に努める。
- 4 苗木については、主幹部の株元にビニールを巻くなどし、土はねを防ぐ。

花植木

- 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。
- 2 天候回復後、強光による日焼けを防止するため苗等は寒冷紗等で遮光する。

- 3 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。
- 4 破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。

茶

○事前対策

- 1 直掛け被覆を行っている茶園では、強風による芽のこすれ防止と被覆資材の飛散防止のため、留め具等の点検・補強を行う。同様に、被覆棚がある場合も点検を実施し、被覆資材をしっかりと縛るなどの対策をする。
- 2 製茶工場内に雨水が侵入しないように煙突、屋根、雨とい、窓等十分に点検・整備・補強をする。

○事後対策

- 1 強風により葉ずれや葉いたみがあった場合には、殺菌剤を散布し病害の発生を予防する。
- 2 幼木園等において風により幹が回されたものは、早めの土寄せや敷き草を行い、地際部や根を保護する。
- 3 茶工場や防霜ファン、被覆棚、茶園の法面等を点検し、必要な修復を行う。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- ・ 農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyouannzen/nettyuusyou.html>